

故 名 譽 会 員 三 輪 周 蔵 を 氏 し の ぶ



土木学会名誉会員
三輪周蔵氏は昭和
39年11月3日享年
74才をもって卒然
として逝去されまし
た。三輪さんは今年
の始めから自宅で御
静養中でありまし
て、私共は一日も早
くお元気なお姿に戻
られるよう祈ってお
りましたが、今やそ
の御温容に接するこ

とができなくなり、洵に痛恨の極みであります。ここに謹んで哀悼の意を表する次第であります。

三輪さんは明治23年7月10日名古屋市でお生れになり、大正4年7月京都帝国大学工学部土木工学科を御卒業後ただちに内務省に入られました。最初大阪土木出張所で吉野川改修工事に従事され、その後大阪府技師を経て内務省土木局勤務となり、全国主要河川の計画と府県治水事業の監督に当たられたのであります。さらに昭和2年より昭和14年まで12年の間、神奈川、兵庫、大阪3府県の土木部長を歴任された後再び内務技師に任ぜられ昭和17年官界を退かれるまでは内務省横浜土木出張所長の要職についておられました。御退官後は京都市に土木局長として招聘され、昭和21年同市を退職されましたからは株式会社銭高組の顧問に御就任、斯業の発展に寄与されました。

京都市御在職中に京都帝国大学より講師を委嘱せられ7年間土木行政の講義を通して若い学生に対し土木技術者の心構えと守るべき節度について指導されたのであります。

本土木学会には永年非常に力を尽されましたが、昭和22年に関西支部長になられ昭和37年には名誉会員に推挙されました。

三輪さんは学窓を出られてより、実に32年の長きにわたって中央、地方を通じ国土の保全、開発に卓越せる御識見と非風の御手腕を示され、特に京浜、京阪神地方に不滅の業績を残されたのであります。

昭和8年に設立された阪神上水道市町村組合はすでに昭和3年頃三輪さんが構想をまとめられ、内海清温さんを顧問に迎えて具体的給水計画を樹てられたものでありまして、今日では阪神水道企業庁として大きな設備と給水能力を持ち阪神間4市の発展に大いに寄与しているの

を見ますとき、その卓見に今さらながら感服する次第であります。

昭和7年より同14年に至る大阪府土木部長時代は、三輪さんにとって最も華やかに活躍された年代であろうかと思われます。大阪市内河川と神崎川の改修、堺港修築、十大放射線道路の建設、府営水道の計画等列举するにいとまがないほどであります。これらの事業の遂行に当り、三輪さんは実に水際立った御手腕を発揮されたことは今も関係者の語り草となっております。

高西敬義先生のお言葉の一節を拝借しますと「大阪市内河川や神崎川の改修、堺港の修築については、内務省や財政当局との折衝、地元の協力態勢の確立など種々の困難な問題を短時日の間に手際よく進められ、瞬く間に実施の段階に持って行かれた三輪君の行政的手腕は、ただ驚嘆のほかはない。しかし自分の所から稲浦鹿蔵君を始め優秀な技術者を多勢連れていかれて大分被害を蒙ったものだ」ということであります。

三輪さんは生涯技術者として土木事業の進展に献身されましたが、加うるに政治的力量も並々ならぬものがありましたから、三輪さんをよく知る人はいずれも政治の分野で御活躍されたならさらに偉大な足跡を残されたであろうと申されております。

三輪さんには、また沢山のエピソードがあります。

大阪府土木部長時代三輪さんの下には課長として前記稲浦さん、赤間文三さん、長久保俊夫さん等一騎当千の傑物が多勢おられまして、この方々は仕事も随分されましたがその反面三輪さんを擁してしばしば料亭に上り、美妓を待らせて大盃を傾け、時に酔余三輪邸に推参して大いに三輪夫人を悩ませたことなど、逸話談話の数々は今もって大手前界限に残っております。

三輪さんは官界を退かれてから居を京都に定められましたが、お友達も段々少なくなりお淋しいようにも見受けられることがありまして、土木学会名誉会員に推挙されたとき会誌に載せられた感想にもこのことを洩らしておられました。しかし昨年暮までは中々お元気で、会社へ出勤されても昼食は私共と梅田付近へ出かけられ、四季を通じて生ビールを楽しんでおられましたことも忘れぬ思い出であります。

御静養中も常に社業や後進のことを御心配せられ、私共も日頃お伺いして御指導に接しておりましたが、今ここに幽明境を異にして三輪さんの偉大さを改めて追憶する次第であります。

謹んで御冥福をお祈りいたします。

(KK銭高組 広長良一・記)